

プラン名 確かな知識・技能を身につけ、活用力を高めよう（70%）

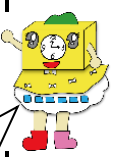
1 授業づくり

解法の手立て(ズバリ・お手本しずこ)をもとに、自分の考えを表現させる。

(1) 現状と課題 (R)

課題	現状と要因
知識・技能が十分に身に付いていない。	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3 5年県評価問題 算数 1 (1) $6 - 0.5 \times 2$ を計算する 67% ・R3 5年県評価問題 算数 1 (4) 12 人に 6L のお茶を等しく分ける式 33% ・R3 5年県評価問題 算数 3 (2) 目標のタイムを求める式と答えを書く 50% ・R3 5年県評価問題 算数 4 (1) 四角形の内角の和の正しいものを選ぶ 50% <p>[要因]</p> <ul style="list-style-type: none"> △知識・技能が身に付いていない。 △授業の中での適用問題等で習熟が図られていない。 △現在の学年の内容はいいが、これまでの学年の知識・技能がどれくらい身に付いているのか確認できていない。

(2) 計画と実行 (P・D)

前期目標	具体的取組			
・知識・技能を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自力で解くことができる問題を決め、時間を設定する。(本時の到達点) →4問スタイル(ホップ・ステップ・ジャンプ・チェック)を重視する。 ホップ:教師と解き方を確認する。 ステップ:ホップの解き方を活かして問題を解く。全員で確認を行う。 ジャンプ:自力で問題を解く。 チェック:適用問題の時間を確保する。 ・型(お手本しずこ)やキーワードを指定して考えさせる。 →思考過程が分かるような書き込み(図や言葉、数直線などで表現)させる。 →児童に補助的な書き込みをさせたり、教師が問いかけをしたりする。 ・授業の中に知識・技能の習熟を図る学習活動を設定する。 →国:漢字・音読/算数:適用問題/社・理:用語のフラッシュカード等/ペア活動 ・学力差への配慮を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なズバリは何か? ・このやり方を使うと解けるな。 ・こんな図に書き表すと分かりやすいな。 		
検証項目		評価(結果)	目標の達成	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業自己評価表:算数科の授業で適用問題の時間を確保した(80%) ・単元テスト(知識・技能)(70%) ・活用する力をみる問題(60%) ・研究授業(算数科の授業で適用問題の時間を確保した/適用問題達成率:70%) 		○(0%) ○(0%) △(0%)		

(3) 検証と改善策 (C・A)

月	検証項目(誰が、いつ)	結果	改善策
4	<ul style="list-style-type: none"> ・授業自己評価表(Aシート) ・単元テスト(知識・技能) ・活用する力をみる問題 	○% ○%	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・授業自己評価表(Aシート) ・単元テスト(知識・技能) ・活用する力をみる問題 	○% ○%	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・授業自己評価表(Aシート) ・単元テスト(知識・技能) ・活用する力をみる問題 ・研究授業 	○% ○%	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・授業自己評価表(Aシート) ・単元テスト(知識・技能) ・活用する力をみる問題 	○% ○%	

2 基盤づくり

前期目標	具体的取組	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の準備をする姿 ・イスにしっかりすわる子 ・ていねいに字を書く姿 ・時間いっぱい取り組む姿を高める。 (各月・学校全体85%以上)	<p>【前年度からの継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導力改善部が、集会で目指す姿の大切さを指導する。 ・児童会運営委員会が、委員会活動で月目標に反映させる。 ・学級担任が、強化日(毎週火金)に児童に自己評価させる。 	